

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100136		
法人名	有限会社 西日本マインド		
事業所名	グループホーム このみ		
所在地	和歌山市布引935-1		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町村受理日	平成24年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=3090100136-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=3090100136-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年10月4日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの想いに寄り添い伝え(表現)出来るよう関わりを大切に、感情豊かに地域の中で暮らせるよう支援しています。支援していく上で大きな力になっているのが、御家族の理解と協力です。来所時、自分の家族だけでなく他の入居者にも家族同様の関わりを持って下さり、グループホーム このみ という第二の家族作りの協力者です。恵まれた環境の中で地域の方々とは散歩や菜園を通し交流を持ち 一人ひとりが自分らしく自由な日々を過ごせています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに遊歩道があり住宅の一角に位置する当該ホームは、小規模多機能居宅介護支援事業所と併設された建物の二階にあります。「地域の中で安全に安心して表情豊かに暮らしていただく」と理念を掲げ、職員は、利用者一人ひとりが自分の思うままに行動し、思ったことを言葉に表し自由に暮らしてもらいたいと願って日々支援しています。利用者の尊厳を大切に支援していますが、職員が失礼な言葉を発したら利用者が注意をするなど、利用者にも職員を教育してもらえるよう関係作りがなされています。また、家族も協力的で信頼関係が築かれており退居された家族との繋がりも大切にしています。利用者は重度化してきていますが、地域にも出かけのびのびと過ごし喜怒哀楽のある生活が出来るようにと職員は支援しています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼時に皆で理念を唱和している	地域密着型サービスの意義を意識して作られた「地域の中で安全に安心して表情豊かに暮らしていただく」との理念をフロアーに掲げ、利用者が地域の中で安全に安心して暮らしていただけているか、毎朝の申し送り時やケアの中で振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民のボランティアや近くの幼稚園児の訪問など地元の人々と交流することに努めている	日常的に近くの遊歩道に散歩に出かけ挨拶を交わすことで地域の方との交流があります。畑の野菜の栽培のアドバイスや藁の差し入れ、収穫物のおすそ分け等、畑作りを通して「お互いさん」の関係が深まっています。アニマルセラピーや大正琴のボランティア、幼稚園児の訪問等の交流も利用者の楽しみとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会の後、運営推進会議中、地域の方々に認知症の方への理解や事務所の支援への取り組みを伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回行っています。少しずつ増やしていこうと思っています。	運営推進会議は、家族や地域の寺の住職、民生委員、幼稚園の先生等が参加し、年4回開催されています。DVDで利用者の状況や活動報告等を行い意見交換をしています。地域包括支援センター職員の方に参加してもらえらる日程の調節や開催の回数を増やせるよう検討しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは認定調査時のみになっているが、認定の中手も事業所の実情サービスの取り組みを積極的に伝えている	市の担当者とは認定調査時のみの関わりとなっております。現状報告はしていますが、市へ直接出向いたり、担当者との協力関係を築けるには至っていません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含めて拘束のないケアを目指し、ミーティングなどに意見交換しスタッフの意識を高めるように取り組んでいる	身体拘束についての外部研修に参加し伝達研修を行い職員間で情報を共有しています。また、わかりやすい資料を用いて言葉による拘束も含め日々のケアが身体拘束に繋がっていないか振り返っています。玄関は施錠せずエレベーターも利用者が開閉でき、一人ひとりが思いのままに自由に生活できるように支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、着替え等でアザ等を見つけた場合、その都度報告し合っている		

グループホームこのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、情報提供し、成年後見人を活用されている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方が納得されるまで何回もカンファレンスを設けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見苦情等は訪問時に出来るだけ意見を伺っている。年2回の家族会には意見交換の場を設けられそれらを運営に反映させられるよう努めている	面会時や電話で利用者の状況を報告しながら意見や要望を聞いています。年2回の家族会には全員の家族の参加があり、意見や要望を聞く機会としています。また、職員は利用者や家族が思っている事を自由に言える雰囲気づくりに努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを行い職員の意見など交流の場を設けている	日々のケアや業務について出された意見や要望はミーティングで話し合い検討をして運営に反映させています。また、上司や管理者は、話しやすく働きやすい環境作りに努め、職員の日頃の様子に関心をもち、帰る時や個人の面接時に気づいた事や職員の思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう職員の提案、意見等を取り入れ実績に向けて努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員や一人一人スキルアップに向けて法人内での研修に取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて当事業所のサービスの質を向上させていく取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階ではスタッフが常に寄り添い不安、困りごとを傾聴共感できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも初期段階の想いを傾聴共感、共有できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族それぞれの想いを感じ、必要なサービスを情報提供し利用している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを大切にし昔の歌を一緒に唄ったりしながら関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方とは情報交換をし本人の想いを大切にし共有しながら信頼関係を築いていけるよう支援に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々1Fのデイに下りてきて馴染みの方にあたりしている	以前の同僚や近所の方、遠方から弟夫婦が訪ねて来るともあります。住んでいた家の前まで行ったり、馴染みのスーパーや喫茶店、百貨店に行ったり、地域の劇団等に出かけるなど、これまでの人や場所の関係が途切れないような支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、歌を唄われたり、ボール遊びをされたりとコミュニケーションを摂りながら良い環境作りが出来るよう支援に努めている		

グループホームこのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後、本人家族が落ち着かれるまで来所訪問させて頂いております		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	歌を唄われている方には一緒になって歌ったり家事をしたい方には洗濯物をたたんで頂いたり一人一人の思いを寄り添う支援を行っている。言葉の理解力が困難そうな方にはのびのびと生活して頂けるようにと詰めています	入居前は自宅を訪問し面談の中で利用者や家族の思いや意向を聞いています。入居後は喜怒哀楽が自由に表現されるように利用者の日常生活を見守り、表情やしぐさ、言葉のやりとりの中で思いを汲み取るようにしています。困難な場合は家族に聞き職員間で情報を共有し本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方から聞いて本人の詳しい情報をもとに対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で一人一人の表情を大切に傾聴する中で気持ちの共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの中で寄り添いながら本人の想いや家族からの情報を元に職員の意見も取り入れながら介護契約をたてている	利用者や家族の意向をもとにミーティング等で職員の意見を聞き、サービス担当者会議を開催し介護計画を作成しています。見直しは基本的に6か月毎に行い、モニタリングを毎月行い変化があればその都度見直しを行っています。必要があれば医師や看護師の意見も取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングは毎月行っているのでその都度職員間で情報交換をして介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠足外食などのサービスの多機能化に取り組んでいる		

グループホームこのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、消防教育機関等、訪問して関わりを持って頂いています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回往診に来て頂いたり通院されたりしてそのときどきの状態を伝えていきます	今までのかかりつけ医を受診する時は、家族が対応し、必要に合わせ職員も受診の支援をしています。協力医の往診や歯科医の往診を受けたり、利用者のあわせた受診支援をしています。医師と看護師との連携も図れており24時間対応可能で医療体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんの変化など気付いた点は看護師に伝えて早めの処置が受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等は来院し安心して頂けるよう支援し病院機関とは情報交換を行い、早期退院に向け受け入れ体制を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について家族の方と話し合いを行い想いに寄り添えるよう事業所も医療との連携に努力しています。本人の状態の変化に応じ支援のあり方を家族、医師、看護師と話し合い事業所、医療と連携をもって支援に取り組んでいます	重度化や終末期の対応については入居する時にホームで出来ることと出来ないことの説明をしています。終末期には、本人や家族の意向を聞きながら医師が家族に説明し、看護師や職員等と連携を図りチーム一丸となって取り組んでいます。ホームで最期を迎えられた方もおられ、職員は今後も家族や本人の思いに添えるケアを大切にしていきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの中で話し合ったり、初期対応など落ち着いて実践できるよう心がけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練は行っているが地域との協力体制までは行ってない	年2回、消火器の業者の協力で昼間を想定して消火器の使い方や避難場所、避難誘導について自主的に防災訓練をしています。消防署員がホームに立ち寄る際には意見をもらっています。	地域とのつながりを大切にしてきた事でホームへの理解が進む中、今後、消防署への協力依頼や地域住民へ声をかけるなど協力体制を築いていかれる事を期待します。

グループホームこのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令的にならないよう受け入れの対応をする様心がけている	日々の会話のやりとりやケアの中で職員は指示的な言葉にならないよう意識しながら対応しています。不適切な対応をした時は利用者が職員に注意をしています。排泄時はプライバシーを尊重した声かけを心がけ、利用者が自己表現が出来るように見守りながら尊厳を守るよう支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんとのコミュニケーションを大切にしたいを伝えやすい環境作りに協力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	歌が好きな方には歌を唄って頂いたりとのびのび生活できる様に努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされたり髪の毛を染めたり毎日の洋服を自分で選んだりとおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後テーブルを拭いて頂いたり出来る事は進んでして頂いています	献立は利用者に好みを聞いて立てています。食材の購入は地域の店を利用したり、スーパーへ一緒に買い物に行きます。利用者はテーブルを拭いたり、台所の側で職員と一緒に過ごしながら食事作りに参加しています。職員も同じテーブルで会話をしながら食事が楽しめるように支援しています。また、喫茶店や外食に行く、弁当やバーベキューを取り入れて楽しみ事となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入浴時の後には水分補給をして頂いて最近1日5回は水分補給を心がけている。自分から言ってお知らせする人もいます		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後出来る方には歯磨きをして頂いている。義歯の方には夕食後はずして頂きポリデント等に付けて頂いている		

グループホームこのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の行動パターンを把握しその都度声かけをしトイレの自立に向けて支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへ誘導しトイレで排泄できるよう支援しています。その方の行動や表情、しぐさ等のサインを読み取りさりげない声かけでトイレへ誘導したり、夜間もトイレで排泄し自立できるよう支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日に何回かに分けてこまめに水分補給をして頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の体調に合わせて週2回ほど入浴されています	一人ひとりのその日の体調や希望に応じて入浴が出来るように支援しています。重度の方は併設する事業所の機械浴を使用しています。入浴を拒否される方へは職員二人で対応したり様子を見ながらタイミングにあわせ声をかけ入浴出来るよう支援しています。歌を歌いながらゆっくりと入浴が楽しめるように心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間には歌を唄われたり外出されたりと活動して頂き夜間にはよく眠れるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自個別に薬を分け、服薬時にはその都度確認し服用して頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人を着ることは進んでして頂いている(ボールあそび歌を唄われたり)時々、外出されたりして気分転換をして頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に1回の遠足と外食等をされたりしてみんなとコミュニケーションを取りながら楽しくされている	ベランダに出たり、遊歩道の散歩や畑の野菜づくりや収穫等で戸外で過ごせるように支援しています。春と秋は遠足に出かけ、外食は新聞広告を見て一人ひとりの希望を聞いて行きたい所へ行ったり、喫茶店には頻繁に行くなど外出が日常的に行なわれるように努めています。今後、個別の意向に添った外出を増やしていきたいと考えています。	



グループホームこのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時スーパーなどに行って買い物をして頂いています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙を大切に保管され時々書いたりされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはベランダに出て季節感を味わったりはたけには季節に応じた野菜等を植えてその収穫をして頂いている	玄関には季節感のある手作りの作品が飾られています。リビングのテーブルの配置の工夫や、日当たりの良い場所にソファやテレビ等を置き穏やかに過ごせる環境を作っています。また、椅子を利用者自身が思い思いの場所に移動させ気に入った居場所を見つけたり、畳コーナーで洗濯物を畳みながら食事の作る音や匂いが漂う中で自由に居心地よく過ごせる生活空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各テーブルが3コあり思い々に好きな場所に座っている。談話されたり歌を唄われたりして過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット以外は全ての私物であり使い慣れた物を使用している。家族の写真手紙等もかざられている	居室にはベッドと布団は備え付けられています。マットや絨毯、箆笥、テレビなど慣れ親しんだ物を持ち込み、趣味で使っていた品々や家族の写真に囲まれた中で安全で安心してその人らしく過ごす生活空間となるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は進んでして頂くようにしている。洗濯物をたたんだり、その人らしく生活が送れるよう心がけている		